

# 第2次 町の将来計画ましまる

## 高福祉社会と環境整備時代に

町では昭和六十年を目標年次とする、第一次総合計画策定の作業を昨年六月から、中堅職員を中心とした「プロジェクトチーム」により進めてきましたその計画が、ようやくまとまり、過日の総合企画審議会を経て、十一月定例町議会で可決承認され、今後十年の重点目標である「高福祉社会の樹立と環境整備時代」にむかつて、総合的、計画的、効果的な行政運営が進められることとなります。

この計画は先に、昭和四十八年を初年次とし、五十五年を目標年次とした、第一次総合計画を策定し、これに沿って今日まで諸施策を実施してきましたが、この間における我が国の社会経済情勢の変化は著しいものがあり、

これに伴い本町を取り巻く情勢も町勢の進展とともに大きく変わり同時に住民を取り巻く環境諸条件の整備が強く迫られてきているのが現状です。

このよつなことから、第二次長期総合計画を策定し、より豊かであり明るい、より清潔な「明日の黒崎町」の建設を図るため、「福祉、生活環境、交通安全、教育」等、住民に密着した行政運営を図るものです。しかし、今後なお変動が予測される社会情勢下においては、弾力的な運用を図らなければならず現実との遊離が著しい場合、適宜修正をしていくものです。

### 経済指標

商品販売額は、一六七四億円  
(現九九〇億円)  
工業出荷額は、三八四億円(現一〇四億円)  
農業生産額は、四一億円(現一四億円)

町民一人当りの分配所得は、二倍に当たる一五〇万円を予測。

### 町の理想像

理想像として、次の四つを重点目標に諸施策を進めていきます。

一、水と緑に恵まれた活力のある町

二、信濃川、中ノ川の自然を保護し、水と緑の自然環境を誇るとともに、田園地帯と住宅地帯の調和のとれた快適な町づくりを

三、あたたかみあふる福祉の町

四、心身障害者、恵まれない人々に温かい手がのび、子供や老人が大切にされ、人間味あふれ、そして健康をそなたが安心して医療を受けられる町に。

一、教育文化のゆき届いた町  
教育の町、スポーツの町としてすぐれた環境のもとで豊かな知識と人間性が高められる教育文化の町を。

二、町民参加の町  
農・商・工で形成されてきた本町は素朴で純粋な風情をもち町民が汗して築いてきたものです。この伝統を守り、町民が考え、そして参加する体制づくりを築く。

次ページへ

## 昭和六十年

### 人口二万四千人に

北陸高速自動車道、上越新幹線に象徴されるように、町は今大きな転換期をむかえています。五十二年秋には、本町より長岡間の高速道路が開通予定、昨年秋には、すでに上越新幹線予定地の農業用地の付け替え工事が進められてお

り完成すれば、また、町の歴史に新しい一ページが加えられようとしています。

このような変化が著しい、町勢の行政指針とするため、本計画を策定したものです。

目標年次(昭和六十年)における町の総人口は、昭和五十年の一・二九倍にあたる二万四千人、世帯数は六千三百に達し、就業人口は同年の一・三五倍にあたる一万二千人に、また、就業構造の構成も第一次産業九%(現一八%)と半分に、第二次産業二五%(現二八%)、第三次産業が六六%(現五四%)にそれぞれ移行するものと予測しています。



慎重に審議をする総合企画審議会

# 秩序ある土地利用

## 商工農業地、住居地の調和のとれた町づくり

**住居地**  
大野以北の既成市街化区域では従来どおり住居地として配置し、緑と空間のある、宅地開発をすすめる、環境のよい住居地として利用を図る。

**商業地**  
住宅地拡大の影響で、既成商業地域の機能が一部分散する動きがみられるが、大野中心部は近代的商業地としての再開発などによる高度利用を図る。

**工業地**  
大野以北の既成市街化区域では従来どおり住居地として配置し、緑と空間のある、宅地開発をすすめる、環境のよい住居地として利用を図る。

国道8号線沿いの準工業地を中心に軽工業などの適地として整備拡大し、準工業地としての利用を積極的に推進する。北陸高速道路インターチェンジ周辺は準工業地とし、新たに拡大する地域では主に流通業務地としての利用を図る。

**農業地**  
農業振興地域整備計画に基づく農用地区域内は、土地盤整備により農地の高度利用による生産拡大を図り、かつ、都市近郊農村としての環境保全に努める。

### 町民が健康で明るい生活を

町政の究極の目的は、より高度な文化生活を保障し、明るく健康的な生活を築き、その福祉の増進を図ることにより、福祉、教育、環境保全等住民に密着した施策を計画的に推進し、また農業、商業、工業、住居地域のバランスのとれた町づくりを目指す。

これらの構想実現に対し、総合的、合理的な行政運営を図るとともに、広域行政などを積極的に推進し町民が健康で明るい生活ができるよう、町と住民が一体となった行政運営を進めていくものです。



住宅が密集してきた鳥原、興野附近

**上下水道の整備**  
飲料水などの給水量は、現在の二倍に予測されるため、施設の拡張を図り、良質で安定した水資源の確保に努める。下水道事業は目標年次までに、排水面積一八二ヘクタールの公共事業を予定。

### ゴミと公害

家庭から排出されるゴミの量は現在の三・三倍に予測され、更に質も多様化することから、広域事業により完全集取と無公害処理を目指す。また、燃えないゴミ処理については早急に用地の先行取得を図る。

このほか、大気汚染、水質汚濁、騒音、振動等は関係機関と連携を密にして公害の防止

### 教育

豊かな人間性を育成するため、幼児期から一貫した人づくりを目指した学校教育を行い、そのため幼児教育と義務教育施設の整備充実を努め、保育所と幼稚園の適正配置と運営調整を図り、社会増に対する義務教育の過密対策などを計画的に進める。

このほか社会教育、スポーツ、文化活動も施設の整備を図りながらその充実を促進する。本年度は総合体育館の建設を予定。

### 道路整備と交通運輸

最近の車社会に対応するため、国道8号線

× × ×